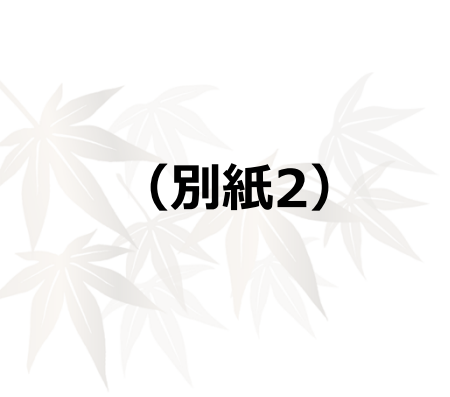




(別紙2)

鷺敷地区への新設SSに関する再アンケート結果

< 注記 >

本資料は、令和8年度第1回那賀町SS過疎地対策協議会で報告したアンケート結果のうち、個人情報等に配慮して自由記載部分を省略し、集計結果を掲載したものである。
なお、回収率は、端数処理の誤りを訂正し、31.16%から31.17%としている。対象世帯数、回収数及び各設問の集計結果に変更はない。

➤ 調査目的

当初計画から月日が経っていることから、鷺敷地区における新設SSの必要性、利用意向、燃料購入状況及び期待するサービス等を再確認するために実施した。

＜対象＞：1877世帯【鷺敷地区 1059世帯・相生地区 818世帯】

＜期間＞：令和8年2月5日 ～ 令和8年3月6日 （3月31日まで延長）

＜方法＞：広報なか（2月号）とともに各戸配布・郵送回収

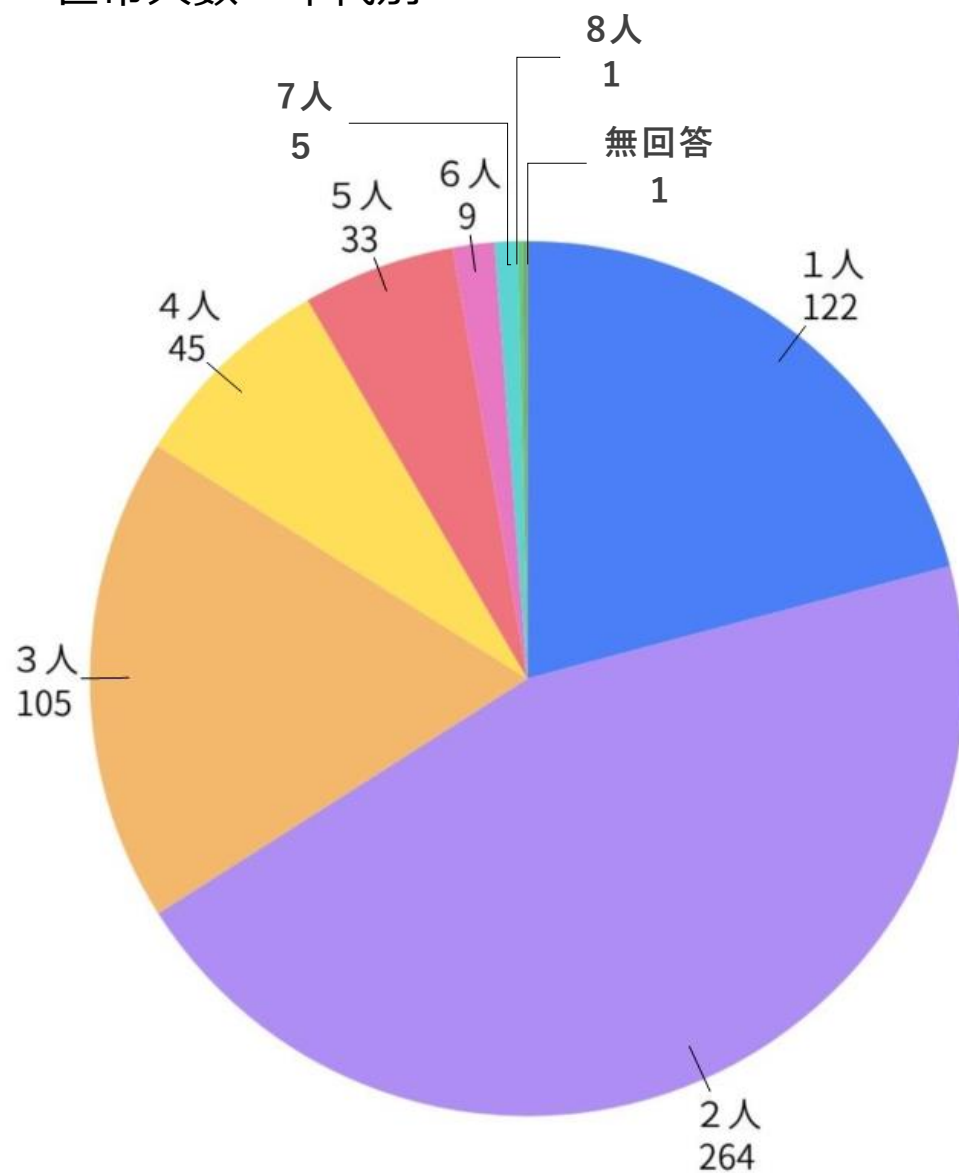
＜回収数＞：585（内訳：鷺敷地区 331件・相生地区 249件・地区不明 5件）

※有効回答数は、設問により異なる。

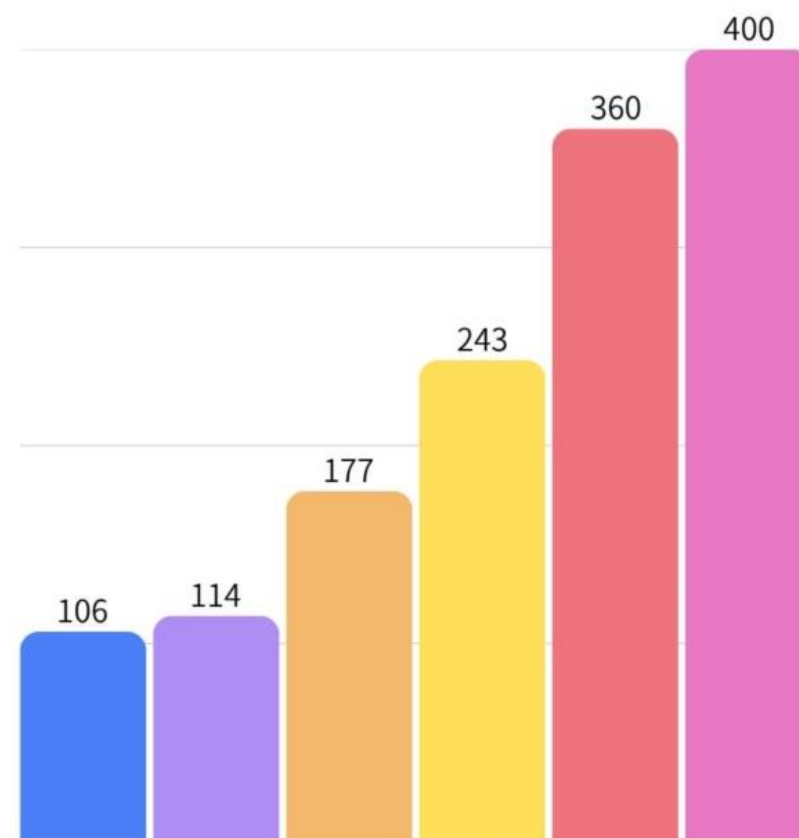
＜回収率＞：31.17%（地区別：鷺敷 31.26% / 相生 30.44%）

➤ あなたのご家庭の人数を合計と年代別にご記入ください。

■ 世帯人数・年代別

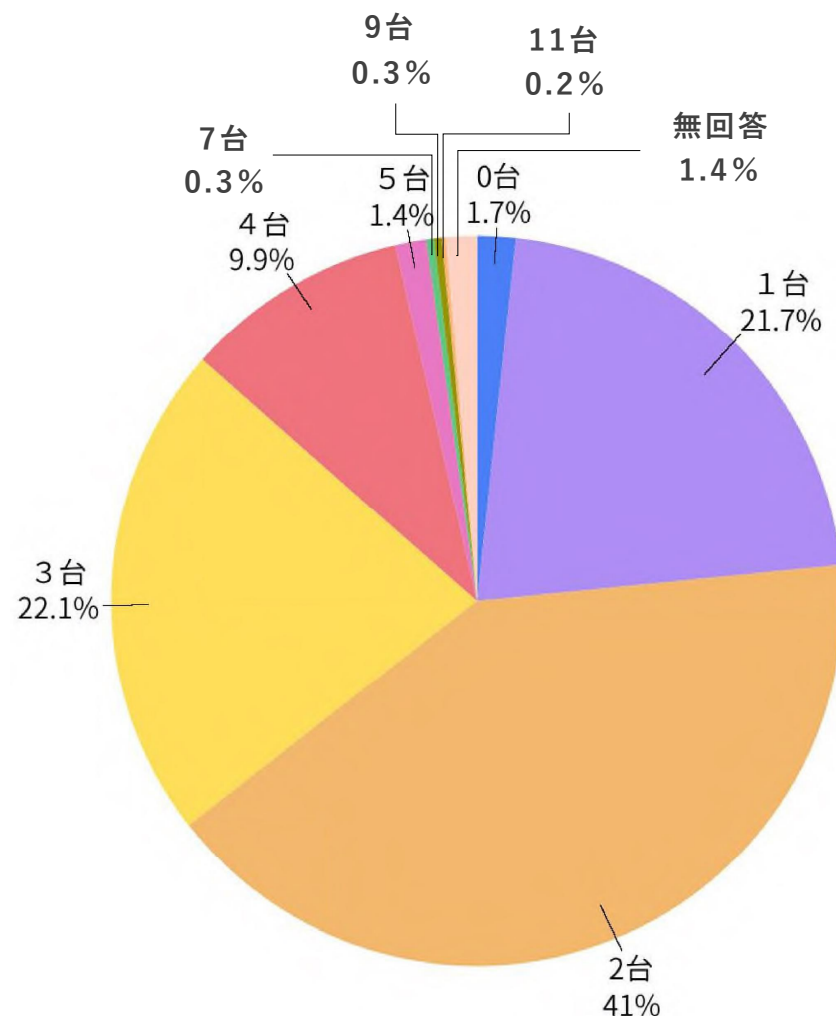


①0～14歳 ②15～34歳 ③35～49歳
④50～64歳 ⑤65～74歳 ⑥75歳以上

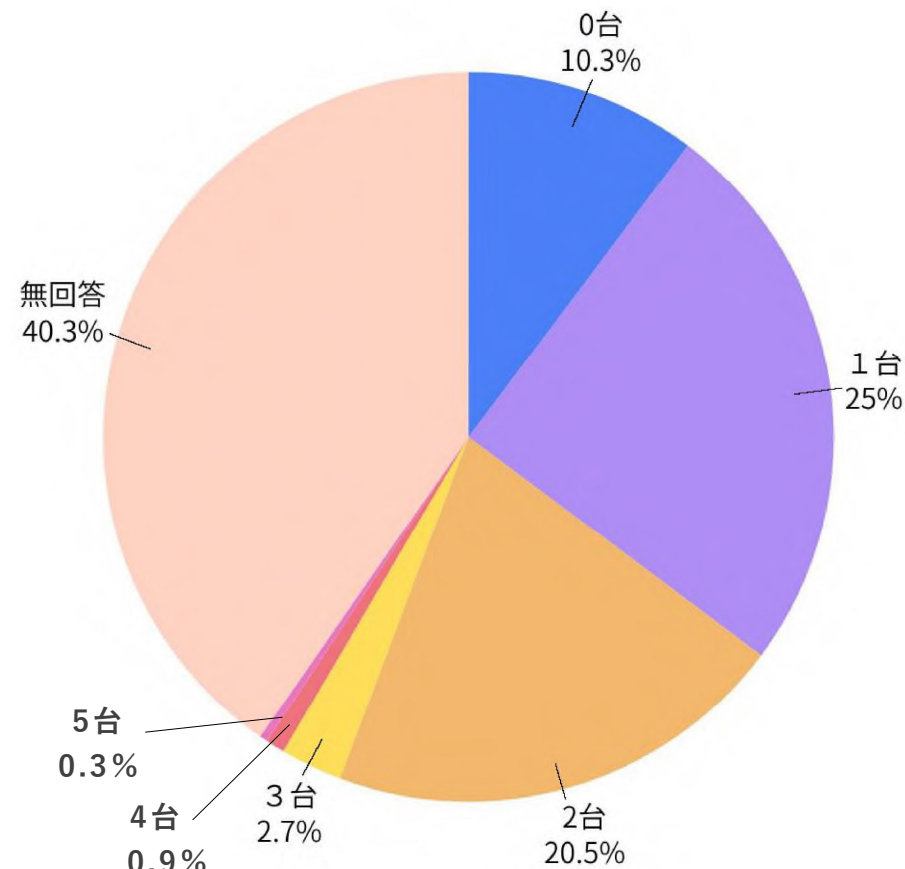


➤ あなたのご家庭で保有している車両の台数をお答えください。

■ 乗用車【普通自動車・軽自動車】

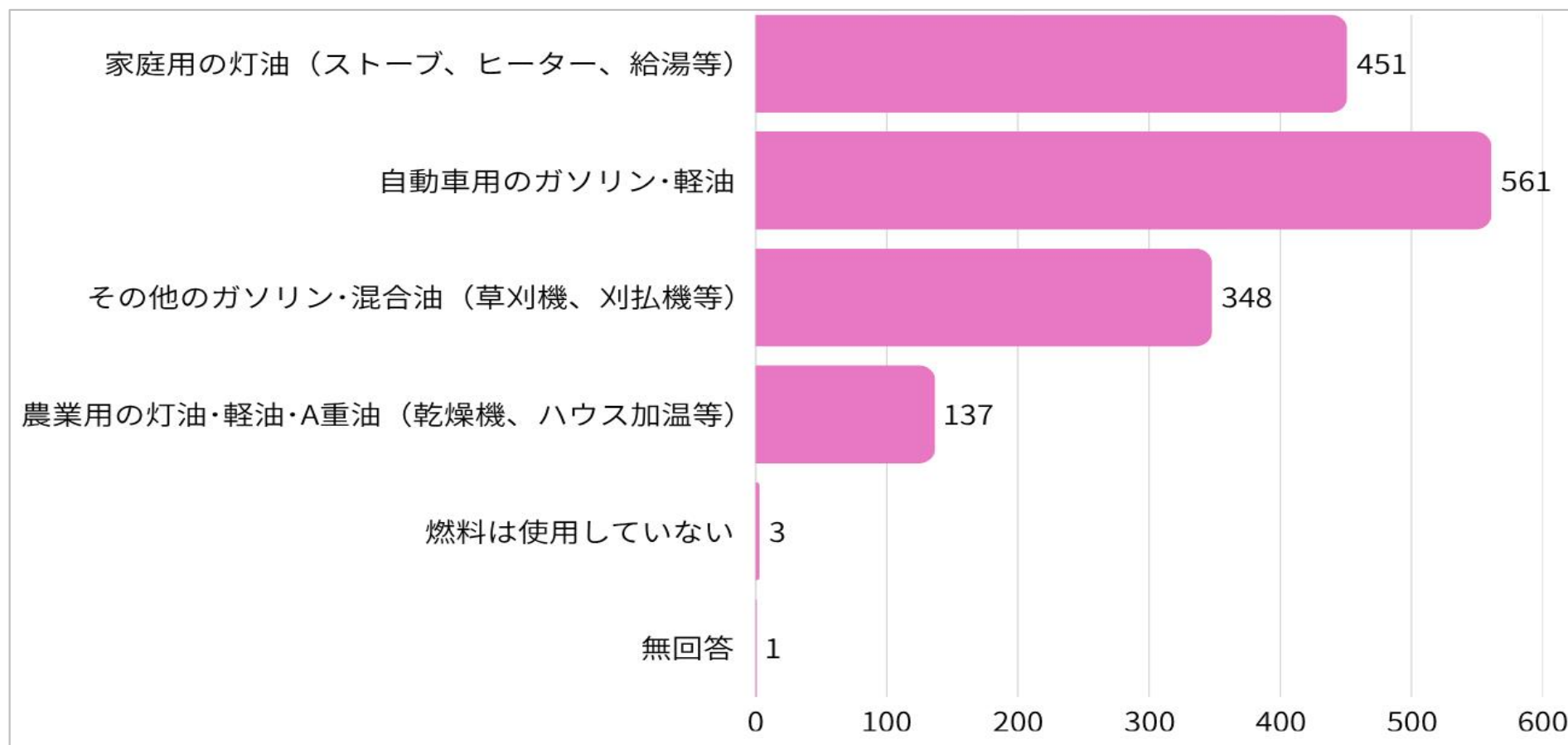


■ 農業用車両【トラクター・耕耘機】



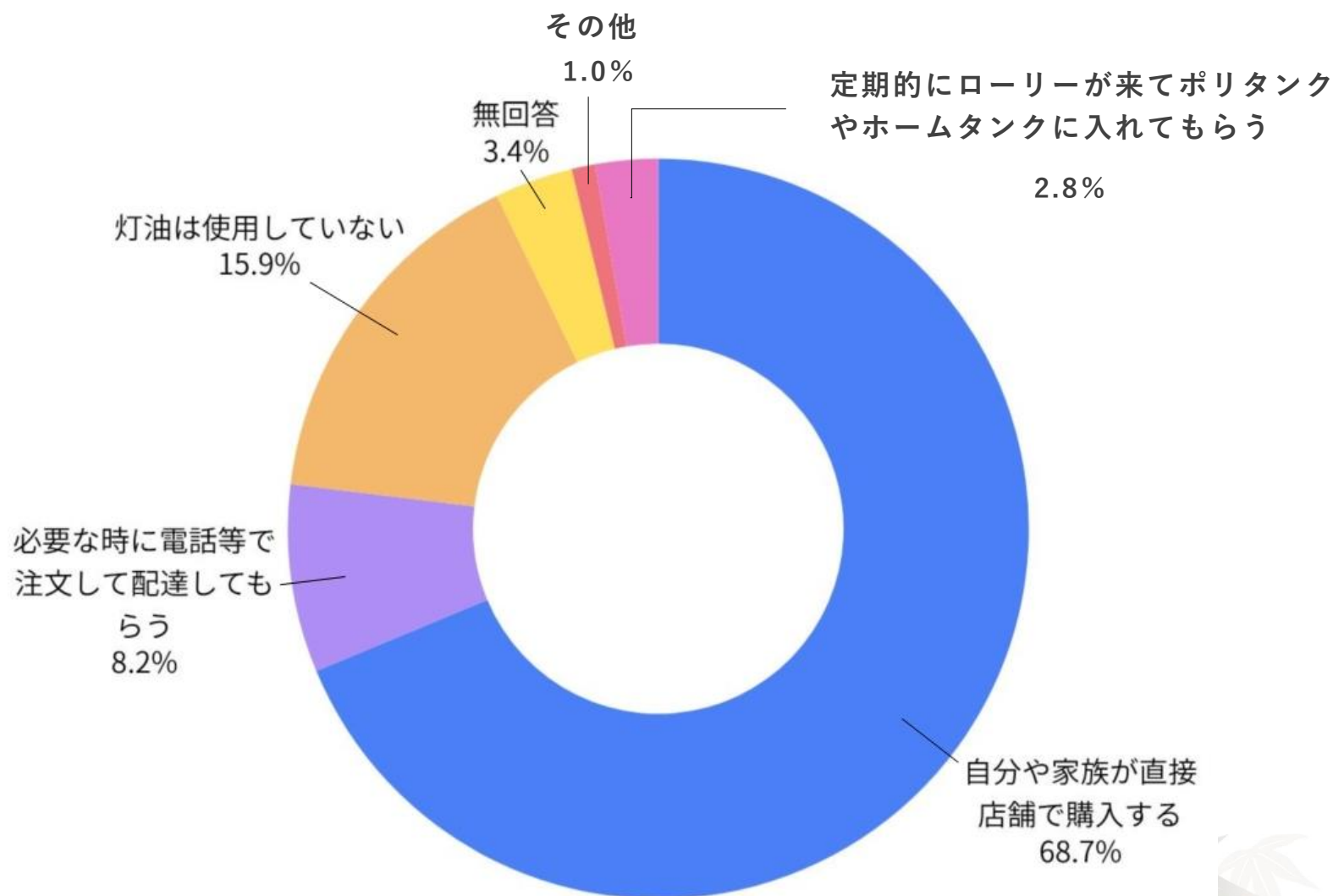
- ほぼ全ての世帯で車を保有されており、燃料の確保が日々の生活に直結していることがよくわかります。
- 2台以上保有の世帯が約75%と多く、家族それぞれが車を利用されている状況がうかがえます。
- 農業用車両を保有されている方にとっても、農業用燃料の安定供給は大切な課題となっています。
- 車なしでは生活が難しいこの地域において、燃料を身近に確保できる環境づくりが住民の生活を支える上で欠かせないことがわかります。

➤ あなたのご家庭で、利用している燃料はなんですか。（使用している燃料をすべて選び回答）



- 町内のほぼすべての世帯が燃料を必要としており、燃料供給は生活インフラそのものである。
- 自動車用燃料・灯油・混合油など複数の燃料を利用している世帯が多く、ガソリンスタンドの役割は多岐にわたる。
- 草刈機・刈払機用の混合油需要も高く、農業者等のニーズが多くある。

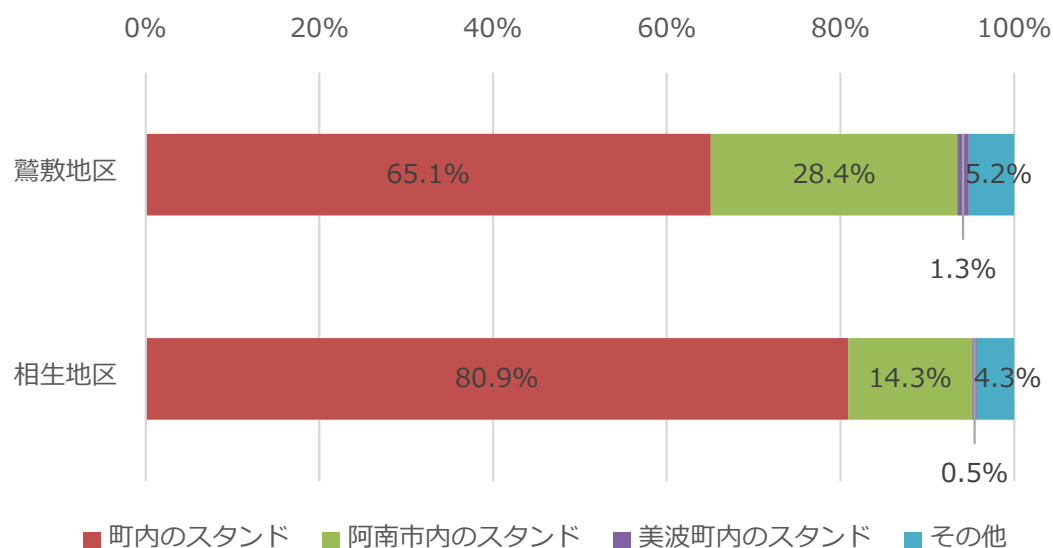
➤ あなたのご家庭での灯油は、主にどうやって購入していますか。



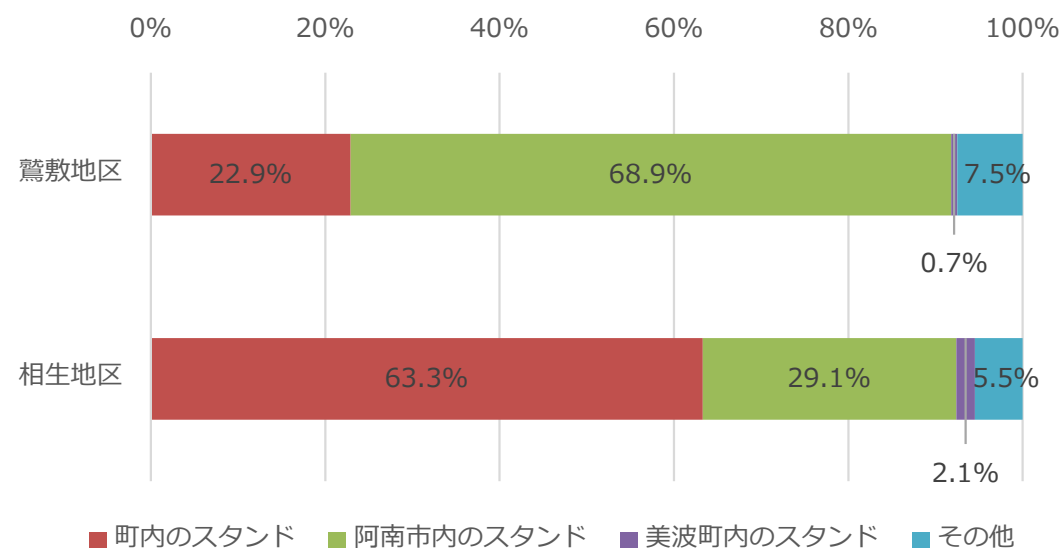
- 灯油購入の約7割が「直接店舗に行く」形式であり、近くにスタンドがないことは生活上の大きな負担となっている。
- 高齢者や車を持たない世帯にとって、直接購入が困難になるリスクがある。
- 配送サービスの利用は1割程度にとどまっており、町内スタンドの新設による利便性向上への期待は大きい。

➤ 燃料について、購入する店・頻度・給油量をご記入ください。

灯油の購入先割合

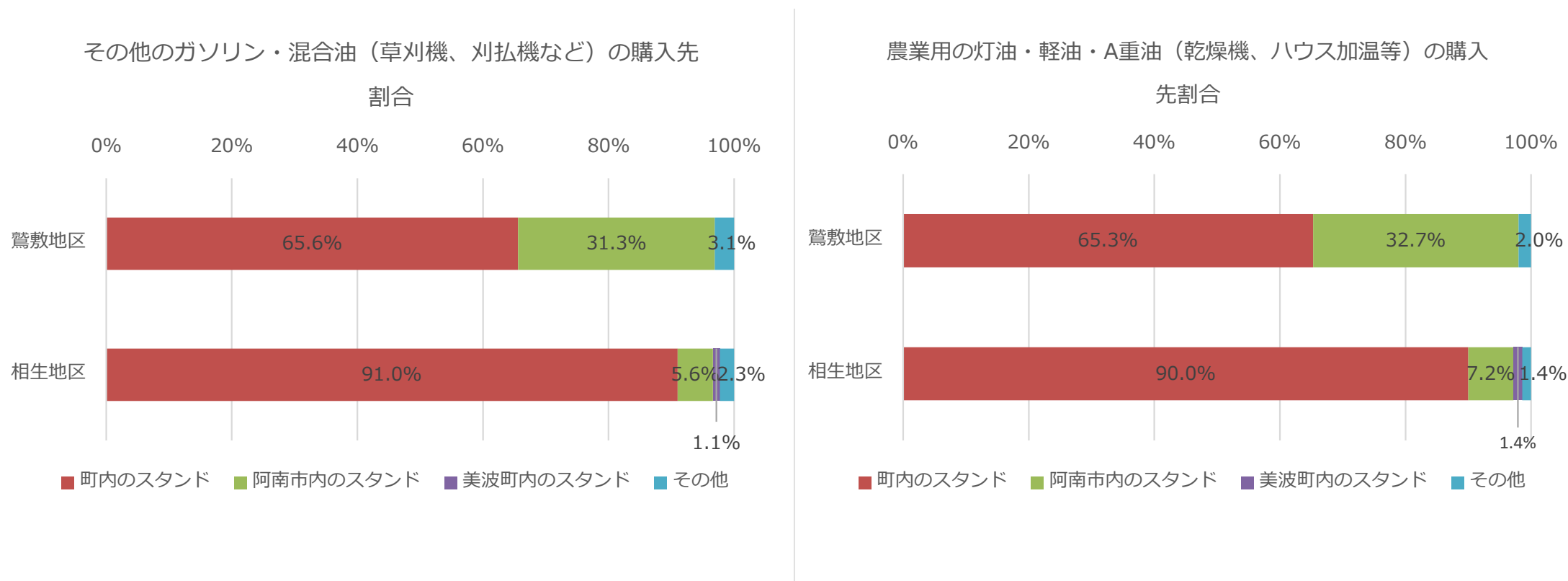


自動車のガソリン・軽油の購入先割合



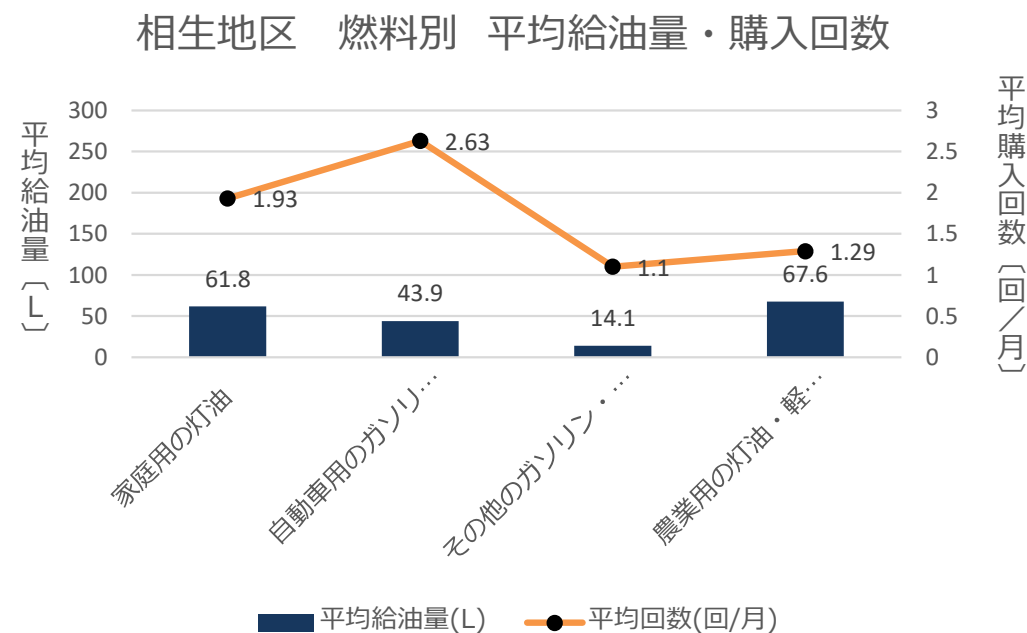
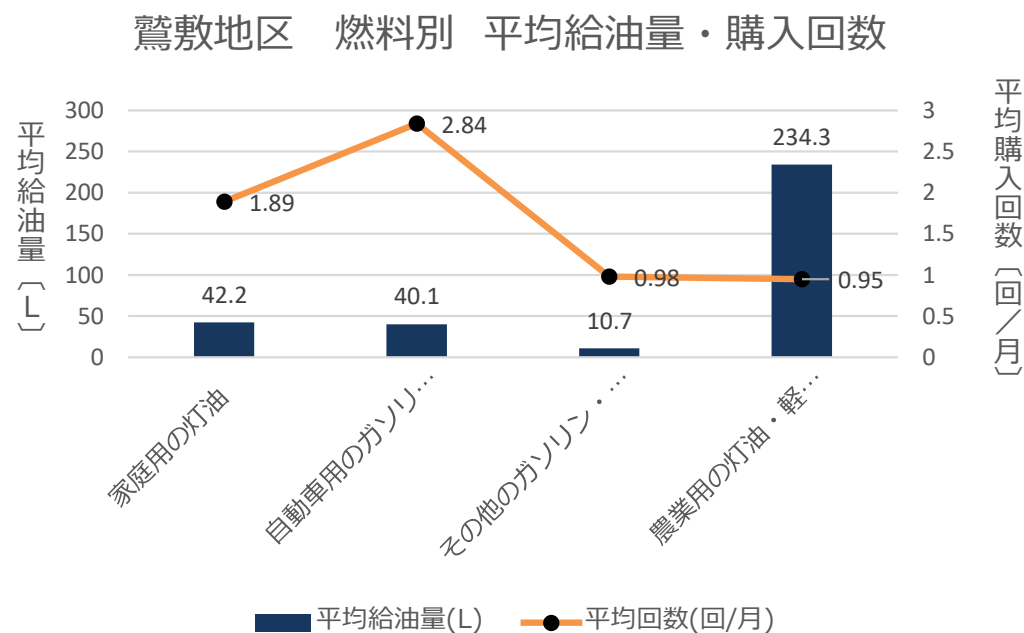
- 鷺敷地区のガソリン・軽油購入の約7割が阿南市内であり、日常的に町外まで給油に出向いている実態がある。
- 相生地区と比較すると鷺敷地区の町外依存度は際立っており、町内スタンド不在の影響が数字に明確に表れている。
- 灯油は町内での購入が維持されているが、ガソリン・軽油の供給体制が特に課題である。
- 町内にスタンドが新設されれば、鷺敷地区住民の移動負担の大幅な軽減が期待できる。

➤ 燃料について、購入する店・頻度・給油量をご記入ください。



- 鷺敷地区では草刈機用・農業用燃料ともに約3割が阿南市まで購入に出向いており、時間的・経済的な負担が大きい。
- 相生地区と比較すると、鷺敷地区の町外依存度は際立っており、町内スタンド不在の影響が明確に数字に表れている。
- 農業用燃料は1回あたりの給油量が多いため、鷺敷地区にスタンドが新設されれば農家の負担軽減効果は特に大きい。

➤ 燃料について、購入する店・頻度・給油量をご記入ください。

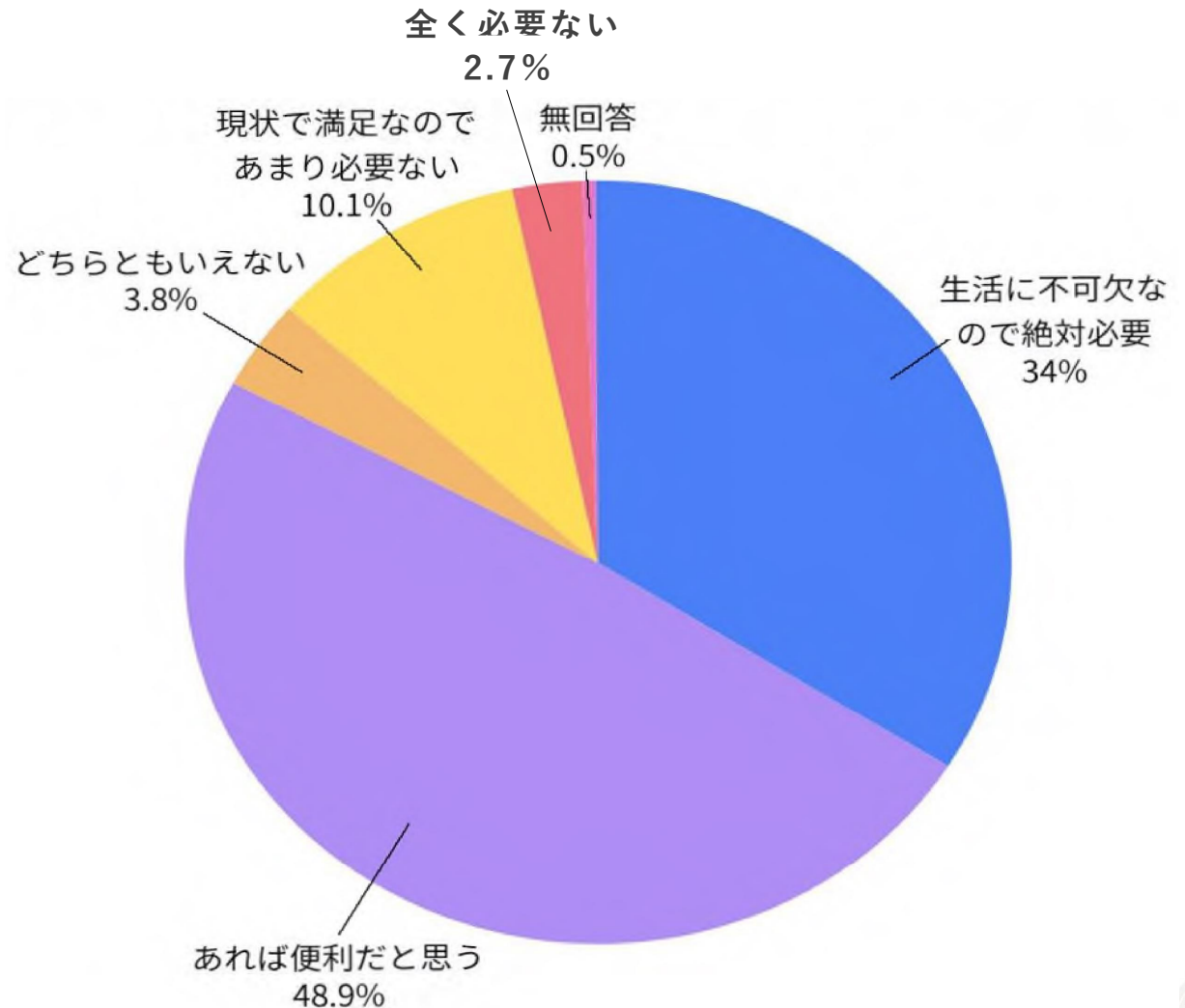


- ガソリン・軽油は月2回以上の購入が必要であり、地区内にスタンドがない鷺敷地区の住民は毎月複数回町外まで出向いている。
- 鷺敷地区の農業用燃料は1回234Lと大量購入が必要であり、町外での調達は農家にとって特に大きな負担となっている。
- 灯油も月2回程度の購入が必要であり、冬季の生活に欠かせない燃料の安定供給が求められる。
- 全燃料を通じて、月複数回の購入需要があることから、スタンド新設による利便性向上の効果は非常に大きい。

➤ あなたは、鷲敷地区にガソリンスタンドが新設されることについて、どのようにお考えですか。

■ 回答件数

生活に不可欠なので絶対必要	199
あれば便利だと思う	286
どちらともいえない	22
現状で満足なのであまり必要ない	59
全く必要ない	16
無回答	3
合 計	585



- 住民の約83%がスタンド新設を支持しており、回答者の総意として新設の必要性が示されている。
- 「絶対必要」と「あれば便利」を合わせると485件に上り、新設への期待が非常に高い。
- 不要派はわずか1割程度であり、住民の幅広い合意のもとで新設に向けた取り組みを進められる。
- この結果は、ガソリンスタンドが単なる利便施設ではなく、生活インフラとして住民に認識されていることを示している。

➤ あなたは、鷺敷地区にガソリンスタンドが新設されることについて、どのようにお考えですか。

■ 地区別回答件数

（鷺敷地区）

生活に不可欠なので絶対必要	162
あれば便利だと思う	142
どちらともいえない	5
現状で満足なのであまり必要ない	19
全く必要ない	3
無回答	0
合 計	331

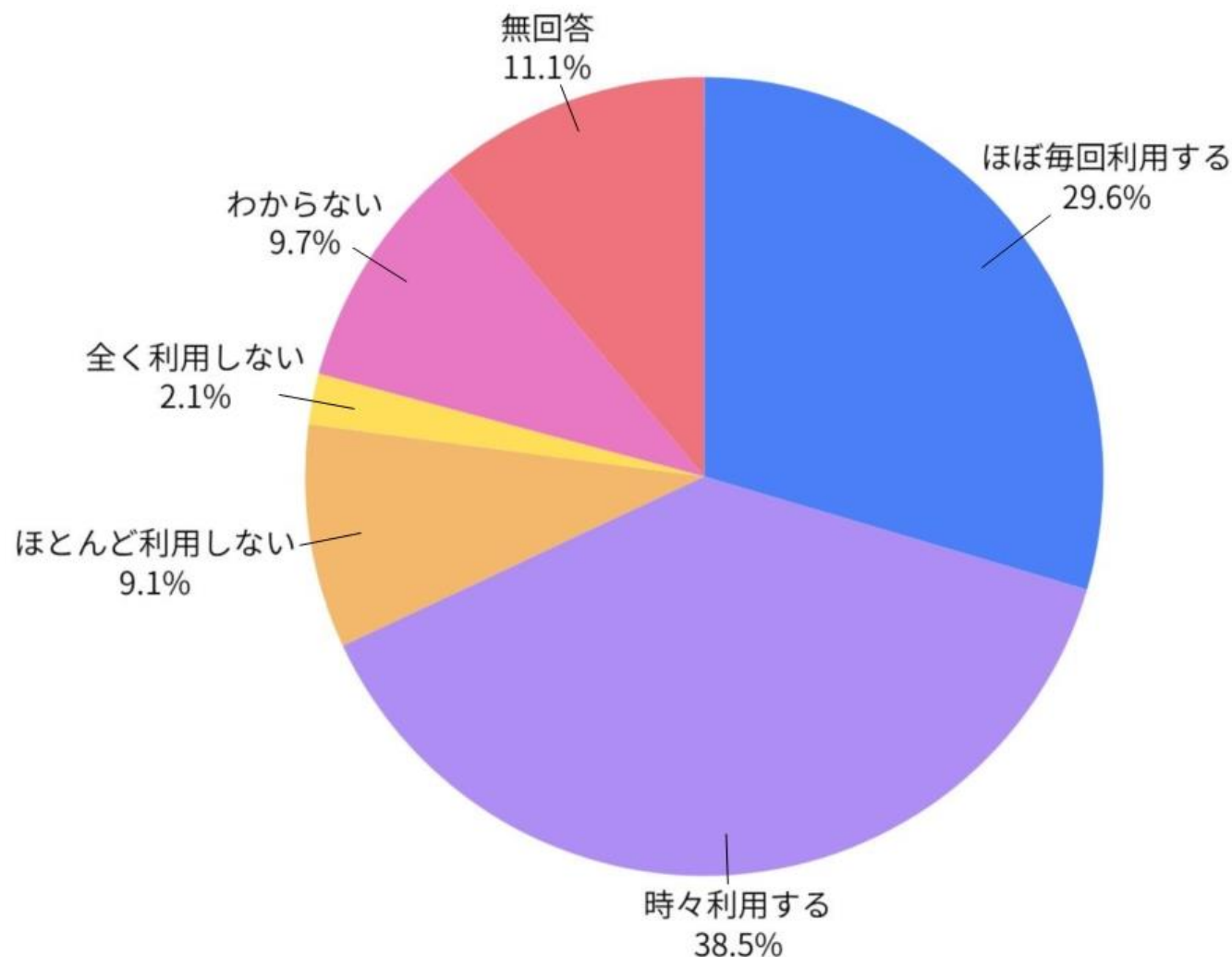
（相生地区）

生活に不可欠なので絶対必要	35
あれば便利だと思う	142
どちらともいえない	17
現状で満足なのであまり必要ない	40
全く必要ない	13
無回答	2
合 計	249

※地区の未回答者5名の回答は以下のとおり。

（・生活に不可欠なので絶対必要：2件 ・あれば便利：2件 ・無回答：1件）

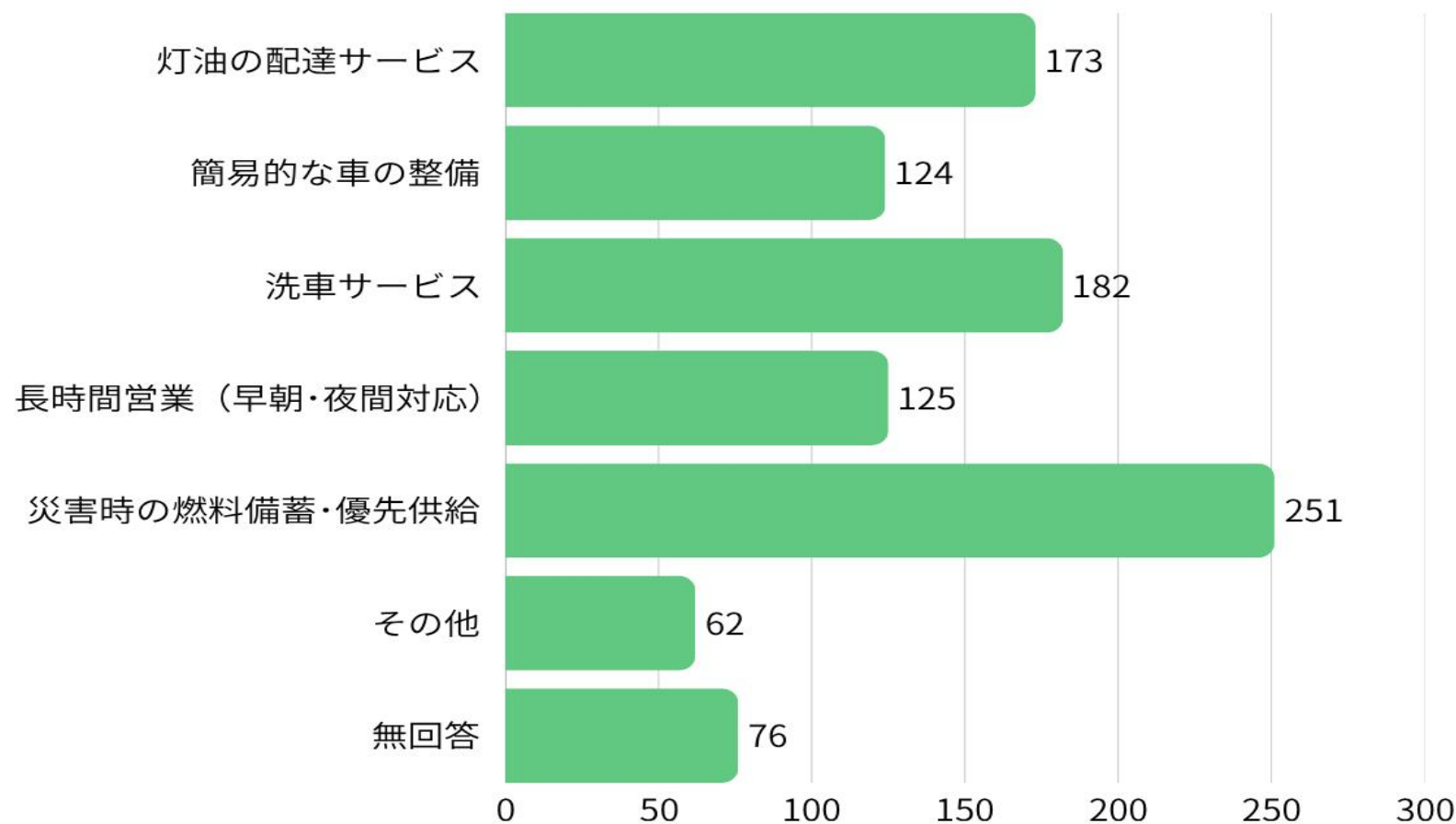
➤ 鷺敷地区にガソリンスタンドが新設された場合、あなたはどの程度利用しますか。



- 約7割の住民が利用意向を示しており、新設スタンドの需要が見込まれる。
- 「ほぼ毎回利用する」層が約3割存在することから、固定客による安定した経営基盤が期待できる。
- 利用しない層はわずか1割程度であり、スタンド新設は住民の幅広い支持を得られる取り組みである。
- 新設意向（83%が必要と回答）と合わせると、多くの住民がスタンドの新設を望んでいることが改めて確認できる。

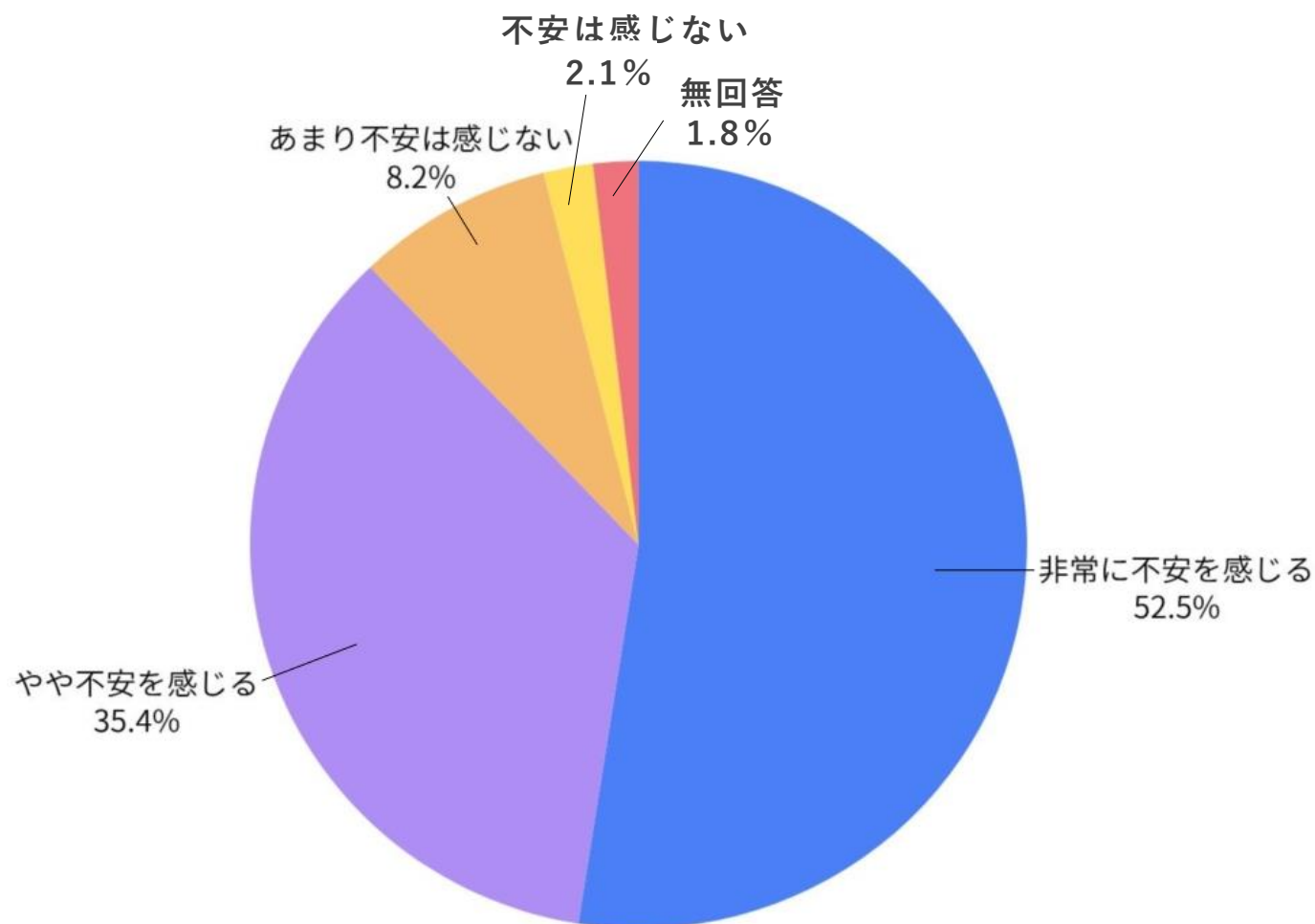
➤ 鷺敷地区にガソリンスタンドが新設された場合、期待するサービスはありますか。

(複数回答可)



- 「災害時の燃料備蓄・優先供給」が最多であり、住民はガソリンスタンドを単なる給油施設ではなく防災インフラとして期待している。
- 灯油の配達サービスへの需要（173件）は、高齢者や車を持たない世帯の生活支援につながる重要なニーズである。
- 早朝・夜間対応や車の整備など、日常生活の利便性向上への期待も幅広く存在する。
- 新設スタンドには給油以外の付加価値サービスの提供が強く求められており、地域の生活を総合的に支える拠点としての役割が期待されている。

- 災害時の道路通行止めや供給途絶など、燃料の入手が困難になることについて、どの程度不安を感じますか。



- 住民の約9割が燃料供給に不安を感じており、この問題が多くの住民にとって切実な生活課題であることがわかる。
- 「非常に不安」が過半数を超えていることから、早急な対応が求められている状況がうかがえる。
- 不安を感じている住民の声を大切にしながら、燃料供給の安定化に向けた取り組みを進めていくことが重要である。